

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立浜玉中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康・体づくり、業務改善、特別支援教育の充実の項目については、令和6年度の評価を上回る結果となった。。教職員が課題意識を持ち、日々の教育実践を協力的、協働的に行つた結果であると考え。 いじめ問題の対応については、教職員が高い意識を持ち日々の指導にあたれている。。 学力の向上について、職員100%、生徒93%、保護者84%が授業改善や工夫がなされていると捉えているものの、教科や分野によっては各種の調査の結果に結びついていない。課題として、知識・技能の確実定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通じた授業改善に取り組む必要がある。 働き方改革の推進については、年次休暇の取得日数の目標達成ができなかったため、今年度は学期ごとに取得日数を確認したり、長期休業中の積極的取得、課業日においても短時間の取得などを促す取り組みの必要がある。
2 学校教育目標	「好き」を育て、「良さ」を伸ばす 《目指す生徒像》 新たな時代を切り開く 生徒の育成
3 本年度の重点目標	1 心の教育（人権教育）の充実 2 いじめの早期発見・早期対応 3 学力の定着と資質・能力の育成 4 キャリア教育の推進 5 地域とともにある学校づくり（いきいき学ぶからつ子事業）

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○学ぶ楽しさを実感し、主体的に学び続ける生徒の育成を目指した授業づくり。	○「授業の始まりで、学習する興味や関心が起きる。」と回答した生徒70%以上 ○「授業を振り返るなかで、「できた！」「わかった！」と達成感を感じる。」と回答した生徒80%以上	・単元の始めに「ラーニング・マウンテン」を提示して、単元を通して身に着たい力を生徒に示す。 ・校内研究会で、実践報告やミニ講座等を行うことで、すぐに活用できるような授業づくりのヒントを得るものとする。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳及び人権教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上。	・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施。 ・道徳科の授業づくりや人権教育に関する校内研修及び講話等の実施 ・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心があふれる生徒を育成する。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上。	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。				
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒80%以上	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。				
	○生徒会活動を通して心の教育の充実。	○生徒の主観的な実感や変容について、生徒の振り返りなどで調べる。	・新入生の歓迎行事、文化委員会等の感謝メッセージの取り組み、図書委員会等の平和集会の取り組みなど。				
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・生徒保健員会と連携を図り、残食チェックの継続とともに、献立の背景や生産者の想いを伝える放送等を行い、感謝の心と「食べられる喜び」を実感できる環境を構築する ・保健だよりや一ロメモを通じて科学的根拠に基づき、健康や病気の予防に良い食事について発信する。				
	○学校体育・部活動の充実。	○全国体力検査における体力合計点を全国平均値を目指す。	・教職員を対象とした講習会や研修会への参加。 ・生徒の自発的な部活動に取り組み、外部コーチを活用するなど合理的・効率的に運営する。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、教職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動複数顧問制を有効活用する。 ・部活動終了1時間後に退勤する。 ・会議日は「定時退勤日」とする。 ・年次休暇の取得日数14日以上となるように、学期ごとに取得日数を確認し、積極的な取得を促す声かけを行う。				
	○業務のデジタル化の推進とチーム学校としての対応。	○教職員のTeamsの登録を100%。 ○はままる連絡帳の有効活用の推進。	・日常的な連絡事項等をTeamsを使うことで、いつでもどこでも確認できるようにする。 ・学校からの便り、休休日の教職員への連絡などははままる連絡帳を有効活用する。				
●特別支援教育の充実	○個々の生徒に応じたきめ細かい対応の実践。	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員70%以上。	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解を図り、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。 ・交流学級との連絡を密にする。 ・個別の支援計画を利用し、適切な支援を行う。				

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちが高める教育活動の推進。 ○人権教育の推進。	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒90%以上。 ○人権教育に関するアンケートに肯定的な回答をした生徒70%以上。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・人権教育に関する講話等の実施。
○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実。	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が75%以上にする。	・小中連携会議を実施して、情報の共有と発信を図り、小中連携を推進する。 ・本校の方針を発信し、地域との協働を行い、理想的な関係づくりを推進する。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--